

令和6（2024）年度 富士見保育園事業計画

I 施設の使命・運営理念

- ・ 子どもたちがちいさい時から、礼拝やお祈りを通して神の存在を知り、互いの違いを認め合い自主性や自律心、創造性を培い共に育ち合う保育を行う。
- ・ 様々な理由で利用する家庭の個々のニーズを的確に把握し、保護者への支援をすると共に、地域に住む子育て中の家庭にも支援を行う。
- ・ 日々の保育園生活、行事や多くの人との関わりを通して、皆から愛され、守られている事を実感して他者を愛する子どもに育てる。
- ・ 法人創立の精神を伝承し、キリストの香りのする施設作りと歴史と、伝統のある事業に誇りを持ち、法人のそれぞれの施設が、良好な運営ができるよう協力しあい、行政に提案できる施設の働きをしていく。
- ・ 法人の掲げた事業計画を基に一丸となって働きに表す。

II 令和6年度の施設運営方針

富士見保育園は、一昨年度から2ヵ年度に渡って新園舎の建て替え工事が行われた。法人、職員、保護者、各業者の方たち、地域の方々、そして子どもたち多くの支えがあり、新たな歩みを始めらでいることに感謝である。旧園舎も約50年もの間、多くの方たちに守られ、愛されてきた。新園舎では、より「地域に愛され親しまれる」よう事業を展開していくことが必要となってくる。保育についても、これまでの保育を引き継ぐとともに新しい環境やこれからの中の子どもたちに合わせた保育を構築していくかなければいけない。そのためにも、子どもたちと生活を共にしながら、環境を整え、一人ひとりの心身の状態などに応じて適切に対応することを意識し、これまで私たちが実践し確立してきた乳児保育の「担当制保育」を軸に幼児期への連続性等、職員で保育の質を高めていきたい。

また、今後の新事業として建替え後の計画には「学童保育」「一時預かり保育」「子育て支援室」と3つの柱を立てている。江戸川区の10年、20年先を見据えた地域に必要とされる事業を展開していくために江戸川区と連携を図り、情報や流れを把握し適切な取り組みを準備していく。

1. 子どもたちの生活の場であるクラスを「より家庭に近いもの」とし、保育環境を整えていき、「子ども」「保護者」「保育士」が共に喜び・楽しみ・感動し合い、共に育ち合える場をつくります。
2. 一人ひとりの発達に合ったきめ細やかな援助ができるよう職員は常に話し合いや学びの場を持ち、保育内容の共通理解を図ります。また、保護者などの求めに対しては、誠意を持って対応できるよう知識・情報・技術・技能などの資質と能力を向上させることを職員は自覚し、働いていきます。
3. 保育内容充実のために、より意欲的に研修(園内・法人・外部)を通し、研鑽していくこと。法人施設間で情報を交換、共有しながら、それぞれが持つ課題を理解し、職員が共通の保育観・子ども観をもち、働きに活かせるようにしていきます。
4. 思いをひとつにして互いに助け合い、支え合い、協力し合い、居心地の良い職場とともに温かな雰囲気の職員集団であり続けます。互いに慣れ合いにならぬよう福祉人として

の人間性・専門性を培います。

5. 昨年度は、通年子どもが罹りうる様々な感染症が流行した。保育園では、集団生活の中で集団感染を防がなければいけない。感染症に関して、正しい知識を取り入れ対策を講じていくこと、保護者にも地域や園の感染状況、感染した場合の症状や潜伏期間等、丁寧に伝えていきます。
6. 新園舎の竣工式を執り行い、これまで携わっていただいた各関係者の方々に感謝すると共に、これからベタニヤホームとして富士見保育園としてのあゆみを周知し、認識していただきます。

III 令和6年度の重点的な取り組み目標と目標達成に向けての具体的な取り組みや事業

1 子どもへのかかわり

重点的な取り組み目標	具体的な取り組み・事業等
(1) 保育内容の充実 子どもは自ら遊びを発展させていきながら、思考力や企画力、想像力等の能力を伸ばすと共に友達と協力することや環境への関わり方などを通して、その子自身の人格が形成されます。	(1) 学びの体験となる遊びに積極的かつ自主的に関わり遊びこめる環境を提供し、子ども自身が感情をコントロールができ社会性が身につくよう成長を見守ります。
(2) 保育内容の向上 乳児保育の「担当制」を通して幼児保育へ連続性をもてるよう一人ひとりの育ちを尊重できる関わりを培います。	(2) 乳児保育では、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」の三つの視点から保育内容を整理、一人ひとりの発達に合ったきめ細やかな家庭的な援助をすすめています。 幼児保育では、「体を使う力」「考える力」「人と関わる力」の三つの柱を念頭に一人ひとりを大切に育てていきます。 キリスト教保育で大切にしている目に見えない心の発達を子どもとの生活の中で、保育士も共に培っていきます。 チャプレンである内藤牧師との礼拝、聖書研究を通してキリスト教の教えを学び、日々の保育に活かしていきます。
(3) 食育・食の安全 年間のクッキング、食育計画を立て、栄養士、調理員、保育士で連携を取りアレルギー対応・誤食のないよう努めます。	(3) 食育の年間計画として、クッキング・栽培活動・収穫体験・食材展示など、子どもが食に興味、関心を持てるよう、心身の発達へ繋がるよう促します。個々に合わせた食事の形状、量、アレルギー除去食など栄養士・調理師・保育士が協力、連絡、報告を密にし、提供します。 地域への食育活動も検討していきます。

2 保護者へのかかわり

重点的な取り組み目標	具体的な取り組み・事業等
(1) 法人・保育園の方針への理解 社会福祉法人ベタニヤホーム、富士見保育園の方針、キリスト教保育のあり方を十分に理解していただきます。	(1) 運営上、保護者の方の理解、協力は必要不可欠なため、父母の会総会・クラス懇談会・行事等での都度、方針や保育のあり方を伝えていきます。日々の中で保護者の方からいただいた意見を職員で理解し受けとめ、丁寧に対応していきます。
(2)保護者支援 家庭状況、働き方など様々な利用者がいる中で相談などに真摯に応じていきます。	(2) 事務室、クラス等で保護者の様子を気にかけ、声を掛けます。自ら発信されない方への思いやり、寄りそう心を大切にします。園の方針は決まっていても、ケースによって一辺倒にせず対応します。また、支援が必要な保護者には関係機関と連携を図り援助します。

3 地域へのかかわり

重点的な取り組み目標	具体的な取り組み・事業等
(1) 地域にある保育園として	(1) 地域との様々な交流も昨年度から、コロナ禍前の姿に戻りつつある。これまででは、決まった施設や場所との交流であった。これまでの交流のあり方を見直すと共に新園舎となり、新たな地域との繋がりを開拓していく。その為には、江戸川区として小岩地区として必要となってくることを精査し、法人、職員と話し合い、進めています

IV 令和6年度の重点的な基盤整備目標と目標達成に向けての具体的な取り組み

1 人材育成

重点的な基盤整備目標	主な取り組み
(1) 職員の資質向上	(1) 基本に立ち戻り、根本的な保育のあり方、子どもと関わるうえで大切にしていくことを職員で考えていくことが求められる。一人ひとりの力が良いかたちで發揮していくよう共に働くものとしての意識を改めてもち、お互いが向上していく話し合いをしていく。
(2) 接遇マナーの振り返り	(2) 人との関わり方、立ち振る舞い、言葉遣い、身嗜み、電話対応等、保育の場において子どもたちの手本となるよう自分の行動を常に振り返り、人間力を培います。自らの子どもへの関わり、言葉かけなどがふさわしいものであるかチェックリスト、会議等で見つめ直す機会を持ちます。

(3) 研修	<p>(3) 職員が同じ思いで進んでいき、共通理解をし、利用者に寄り添う為には、日頃から話し合いをしていくことを意識する。全職員が集まり、日々の思いや課題などをテーマに発信する力、考える力、聞く力、思う力を養います。</p> <p>今年度、新園舎の保育について職員全体で話し合いを進め地盤を固めていくとともに外部からも保育を見ていただき意見を参考にしながら保育環境を整え、保育の質を高めていきます。</p>
--------	---

2 施設整備

重点的な基盤整備目標	主な取り組み
(1) 建物維持管理	<p>(1) 新園舎でも継続的に使用できるものを選定しコストダウンを図っていくとともに定期的に点検し建物維持の中長期計画のもと管理いていきます。</p>

3 危機管理

重点的な基盤整備目標	主な取り組み
(1) 防災意識を高める	<p>(1) 地震、水害、火事等、災害時に各自自分の役割を把握し的確に行動できるよう新園舎でのマニュアルを習得し、訓練も様々なケースを想定し即時に対応できるようにしていきます。</p> <p>発電機・蓄電器等、防災用品、非常食等を十分に備え対策を講じています。</p>
(2) 安全対策、点検	<p>(2) 職員で施設安全チェック表をもとに職員が見回り園内・園庭の安全確認を行います。</p> <p>利用者の安心、安全を守るためにもその都度、環境を見直します。</p>